

## 第5学年 社会科の実践

1. 単元名 未来を支える食料生産「米づくりのさかんな地域」 (全14時間 本時11時間目)

### 2. 単元目標

- ・我が国の稲作が、自然条件を生かして営まれていることや、その生産にかかわる人々の工夫や努力によって支えられていることを理解するとともに、地図帳や統計などの各種の基礎的資料を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・稲作にかかわる人々の働きを多角的に考える力、稲作にかかわる課題を把握して、これからの稲作の発展について考える力、考えたことを説明する力を養う。
- ・我が国の稲作について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して我が国の産業の発展を願い、我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

### 3. 「ひびき合う三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

- 研究課題・・・子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成  
手だて・・・子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり  
高学年ブロックテーマ「仲間への理解、自立する自分」
- ・仲間を理解しつつ、自分の思いも大切にする姿
  - ・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

#### 〈聴く・話すについての指導〉

聴く・話すについては、みんなにどう話したら伝わるのか、どう聴いてもらったらうれしいのかを子どもたち自身で話し合い、それができているかどうかを子どもに問いかけながら指導している。

聴くことについては、静かに聴く子どもは多くいるが、その真意を理解しようとしたり、反応したりしながら聴くことができる子どもが少なかった。そこで、「友達の考えを聴いて、自分の心が動いたときにノートに書いていこう」という声掛けを大切にしてきた。すると、少しずつではあるが、友達の考えを理解しようとしながら聴く子どもが増えてきた。

話すことについては、担任に向かって話したり、黒板ばかりを見て話したりする子どもが多い。そこで、みんなの方を見て話すために指示棒を使ったり、ジェスチャーを使ったりすることでみんなに伝えようとする子どもが増えてきた。また、一気に話すのではなく、「ここまでのいいですか」といった言葉を使って確かめながら説明する良さを伝え、そのような話し方ができている子どもがいたら認めて価値付けしていくことを大切にしている。

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

子ども同士が関わり合い、ひびき合えるよう、ペアやグループでの話し合いをなるべく多く取り入れている。そこでは、まだ自分の考えを相手に伝え、相手の考えを聴いて終わってしまい、考えを深め合う話し合いまでにいたらないペアやグループがある。そこで、グループの中で話し合いリーダーを設けた。そのリーダーを中心に話し合いを進めていくことで、伝え合うだけでなく、質問しあったり、深めたりするグループが増えてきた。自分にかかわることであると、多くの子どもが熱心に話し合う場面があるので、なるべく子どもにとって身近な学習課題を与えていくことを大切にしている。全体での話し合いになると、友達の話をよく聴いている子どもは多いが、その意見交換の中に入ろうとする子どもは限られており、少ない人数でひびき合っていることがある。クラスみんなでひびき合うことを目指していくために、自分の考えをしっかりとまとめることに加えて、聴く・話すの土台を大切に指導していきたい。また、教師が話し合いをリードしすぎず、子どもが中心となって、自分たちで問題や疑問を解決していけるような姿を目指していきたい。

#### 4. 単元と指導について

〈単元について〉

本単元では資料や農家の方の話をもとに、米づくりに適している自然環境や生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食糧生産にかかわる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して日本の食糧生産を支えていることを理解できるようにしていく。また、日本の農業の様子や発展について主体的に学習問題を追究・解決し、これからの食糧生産について自分なりに考えようとする態度を養う。

学習内容は、新潟県魚沼産の米作りと小田原市の米作りを比較しながら進めていく。地図やグラフ、農家の方に直接お話を聞くことを通して、それぞれの気候や環境を生かした稲作や、米作りの工夫や努力、おいしいお米を多くの方に食べてほしいという強い思いを理解できるようにしていく。また、米の生産量や農業従事者の減少など、現代の農家の抱える悩みや課題についても学び、困難に直面しても農業を続けようとする農家の人の工夫や努力、これからの農業の発展について考えていきたい。

〈指導について〉

導入では「新潟県魚沼産コシヒカリ」と「小田原市産はるみ」を実際に食べて比べる。それぞれのお米の味や食感、見た目、においを比べながら食べることで2つのお米の大きな違いに気づく。その違いがなぜ生まれるのか、子どもたちは「作り方」「作っている場所や環境」「作っている人」の3つが要因ではないかと予想し、この3つについて「新潟県魚沼産コシヒカリ」と「小田原市産はるみ」を比べながら調べていく。

「新潟県魚沼産コシヒカリ」を調べていくと、大きな特徴として広い土地があり、機械を導入して大量のお米を生産していること、米づくりにあった自然条件を生かし、おいしいお米を作っていること、広い土地であるため、農薬や化学肥料を使って虫や雑草からお米を守ったり、養分が全体にいきわたるようにしたりしていることが挙げられる。一方「小田原市産はるみ」では、新潟のように広い土地はないが、無農薬でお米を生産しているという特徴が挙げられる。また、2つのお米に共通していることについては、品種改良をすることで、その土地の気候に合ったお米を作っていることに子どもたちが気づくと考えられる。

2つのお米について調べていく中で子どもたちから「お米を作っている農家の方に詳しいことを聞きたい」という反応が出ると予想される。そこで「新潟県魚沼産コシヒカリ」を作っている細金さん、「小田原市産はるみ」を作っている志村さん、それぞれに話を聞く機会を設け、米づくりでこだわっていることや大変なこと、米づくりの課題などを話していただく。子どもたちは実際に作っている農家の方の話を聞いて農家の方の工夫や努力、米づくりに対する情熱を理解することができると考える。お二方の話を聞き、子どもたちからは「どちらの方も米づくりに対していろいろな工夫をされていてすごいと感じた」「課題として、お米づくりをする人が減っている

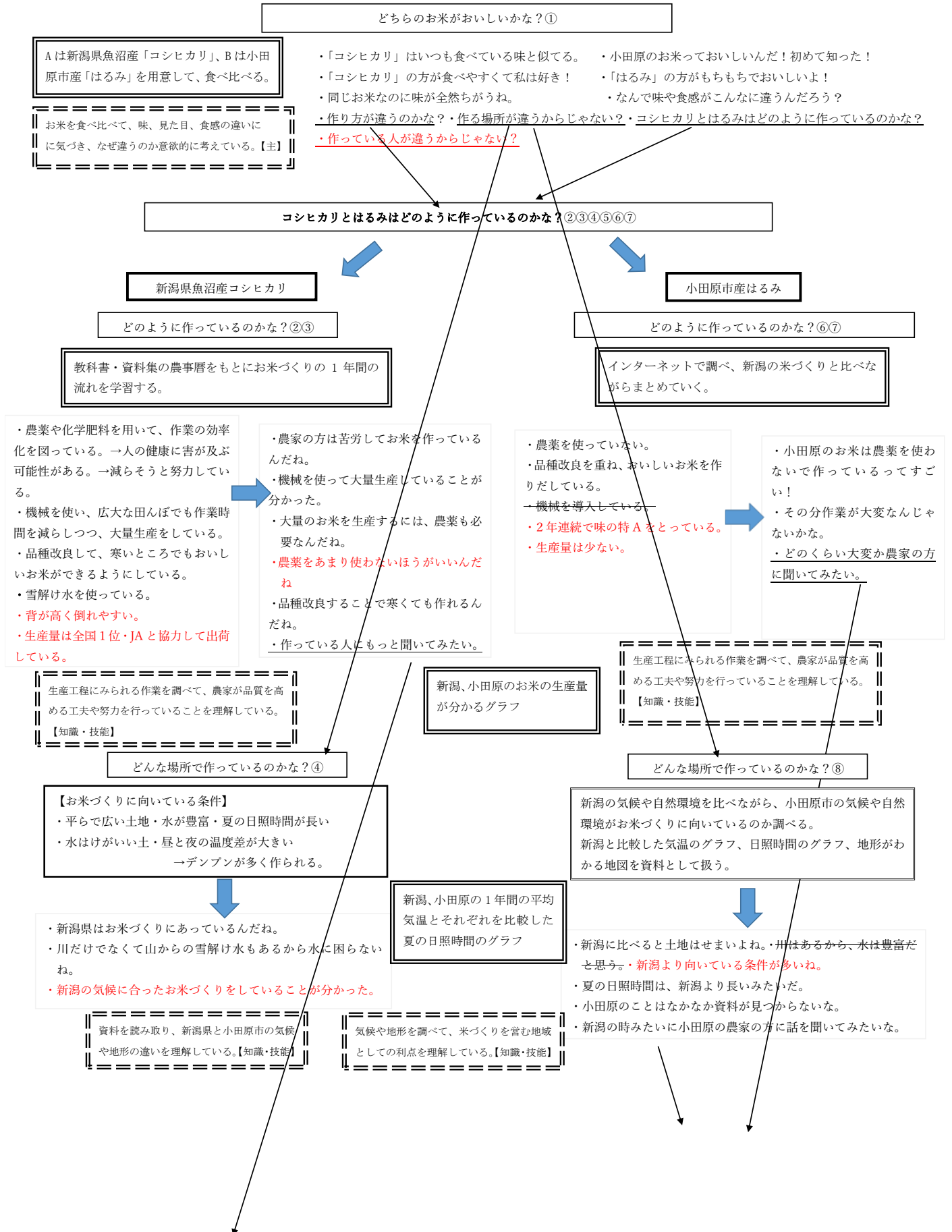
ことが共通している」といった反応があると考え。さらに、志村さんの無農薬・化学肥料を使わない米づくりの大変さを聞き、「とても大変なのに無農薬を続けていてすごい」「あんなに大変なら細金さんのように農薬を使えばいいのに」「どうしてあんなに大変なのに無農薬でお米を作ることを続けているんだろう？」といった反応があると予想する。そこで本時に子どもたちが解決したい問題は「とても大変なのに、志村さんはどうして無農薬でお米を作ることを続けているの？」である。これまで学習してきた無農薬のよさや、志村さんのお米づくりに対する思いを踏まえながら予想していく。話し合う中でこちらから農薬を基準の半分以下で使っている「新潟県魚沼産コシヒカリ」の値段と、無農薬の「小田原市産はるみ」の値段を提示する。また、平塚市で農薬を使って生産しているはるみの値段も提示し、農薬を使わないことで値段が高くなることが分かるグラフを用意する。子どもたちはこれまでの学習から、無農薬であると手間暇がかかるため、お米の値段が高くなることを理解したうえで、その資料を見て志村さんも農薬を使っているのではないかと考える子どもも出てくると考える。無農薬で米づくりを進めるか、農薬を使って米づくりを進めていくかを話し合うきっかけの資料としたい。志村さんの思いから考えたり、消費者の思いから考えたりと、多角的な視点をもって農薬について考えてほしい。そして、志村さんがどうして無農薬でお米を作り続けるのかについて、これまでの学習から考えをもち、話し合いを通して多角的に自分の考えを深めたり、より明確にしたりする姿をひびき合いの姿とする。

単元の後半には、細金さんや志村さんの話を聞いて、米づくりの課題が共通していることから、どのように解決していったらよいかについて考えていく。米づくりをする人が減っている、お米が余っているという課題から、「米づくりの魅力をみんなに伝えよう」「小田原のお米のすごさを伝えたい」「農家の方が一生懸命に作ってくれたお米を大事に食べていこう」といった反応があると考え。また、農家の方が実際にこの課題とどう向き合っているのかを調べ、農家の方の努力に気づいてほしい。

ノート指導では、毎時間、「お米日記」という振り返りを書くようにしていく。その時間で自分が感じたことや気づき、新たな疑問を書くことで、学んだことを整理できたり、クラスの新たな問いが生まれたりすることができると考える。また、予想を出し合い、話し合った後、最後に自分の考えを改めて書くことで、自分の考えの変化に気づけるようにしていきたい。子どもが書いた振り返りには、毎時間教師からコメントを入れるようにしている。より深めてほしいことや、違った視点に気づけるようなコメントを入れ、多角的な視点を与えられるようにしていく。

【単元目標】

- ・我が国の稲作が、自然条件を生かして営まれていることや、その生産にかかわる人々の工夫や努力によって支えられていることを理解するとともに、地図帳や統計などの各種の基礎的資料を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・稲作にかかわる人々の働きを多角的に考える力、稲作にかかわる課題を把握して、これからの稲作の発展について考える力、考えたことを説明する力を養う。
- ・我が国の稲作について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して我が国の産業の発展を願い、我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。



農家の方（細金さん）に話を聞いてみたい！⑤

農家の方（志村さん）に話を聞いてみたい！⑨

【工夫】

- ・雪解け水を使っているから、おいしいお米ができる。
- ・機械を使っていることで、作業の効率化を図ることができる。
- ・農薬を国が決めた基準の半分にしている。

・冬のシーズンに除雪作業を行う。

【課題・困っていること】

- ・農業を継ぐ人がいない。・天気が悪い日が続くととても大変。
- ・お米を食べる人が減っている。→お米が余っている。
- ・台風が来たら何もできない。・水が足りないとお米の品質が下がる

【思い】

- ・多くの人においしいお米を食べてほしい。
- ・消費者にお米を食べて笑顔になってほしい。

【工夫】

- ・品種改良している。・機械を導入して作業を効率よくしている。
- ・**農薬を使わないことで、健康にもよく、質にこだわっている。**
- ・世界一のレストランで使われている。

【課題・困っていること】

- ・無農薬は手間暇がかかる。
- ・高齢化で継ぐ人がなかなかいない。・お米が余っている。
- ・農地の隣に家があり、トラブルになってしまう。土地がせまい。

【思い】

- ・たくさんの人においしいお米を食べてほしい。
- ・小田原のお米を全国の皆さんに知ってほしい。

農家の方が課題に対して改善しようとしている姿やどんな思いでお米を生産しているかを理解している。【知識・技能】

- ・それぞれのお米はいろいろな工夫をしているんだね。
- ・作り方や工夫が違うから味もあんなに違ったんだね。
- 僕は新潟の細金さんのコンシヒカリの方が大量に作っているし、機械もすごかったからいいと思った。
- 私は小田原の志村さんのお米作りの方がおいしさにこだわって作っていると感じたよ。
- どっちもいいと思うけど→
- どっちのお米作りの方がいいのかな？
- ・どちらの課題も共通して、後継者不足があったね。
- ・**細金さんはたくさんの工夫をしていることが分かった。・細金さんは農薬を減らして使っていたね。**
- ・**志村さんは無農薬のために大変だけど頑張っていたね。**
- ・**すごく大変そうだったな～。・農薬を使えば志村さんも楽になると思う・・・。**
- ・志村さんはどうして大変なのに無農薬を続けているんだろう？

どっちのお米づくりの方がいいのかな？（本時）⑩⑪

| 新潟県産コンシヒカリ        | 小田原市産はるみ                        |
|-------------------|---------------------------------|
| 【良さ】              | 【良さ】                            |
| →機械を使って大量に生産できる。  | →農薬を使わず、味にこだわっているところ。           |
| →多くの人に食べてもらえる。    | →世界にも認められている。                   |
| 【課題】              | 【課題】                            |
| →農薬は健康被害が出る可能性。   | →土地がせまい。・大量に生産できない。・時間がかかってしまう。 |
| →機械の値段が高い。        | 【課題】                            |
| 【良さ】              | →後継者不足・お米があまり。                  |
| →おいしいお米を食べてほしい思い。 |                                 |

どちらの米づくりがよいかについて考えることで、それぞれのよさや課題を多角的に考え表現している。【思考・表現】

- どちらも良さや課題があることが分かった。
- どちらもおいしいお米を届けたい、食べてほしいという思いがあったね。
- おいしくするためにそれぞれちがった工夫や努力をしているね。
- 共通している課題があることが見えてきた。
- 農家を継ぐ人がいなかったり、お米が余ってしまっていることがあるらしいよ。
- ・この課題を解決していくにはどうすればいいかな？

志村さんはどうして大変なのに無農薬を続けているんだろう？⑩⑪（本時）

- ・お客さんの体を大切に思っているからだと思う。
- ・他の品種と差をつけたいからじゃない？
- ・無農薬をアピールしていけば売れると思っているから。

農薬と無農薬の値段の差が分かるグラフの資料

無農薬

- ・やっぱり、無農薬を続けることでほかの品種との差が出てくるからいいと思う。
- ・無農薬がいいっていうお客さんもいるから。
- ・無農薬ということで小田原のお米が有名になってほしい。

農薬

- ・値段が高くなるなら農薬を少しは使いたいと思う。
- ・基準を超えていなければいいんじゃないかな？
- ・毎日食べるものだから、安いほうが多くの人に買ってもらえるよ！
- ・大変だと継ぐ人が増えないと思う。

モヤモヤ

→志村さんになんで無農薬を続けているか聞いてみたい。

・継ぐ人がいれば無農薬でもいいと思うけど、継ぐ人がいないって言ってたから農薬使ったほうがいいよ。

・じゃあ継ぐ人増やせばいいじゃん！

・どうやって増やせばいいの？

志村さんがどうして無農薬でお米づくりを続けるのかについて、これまでの学習から考えを持ち、話し合いを通して多角的に自分の考えを深めたり、より明確にしたりすることができる。

【思考・判断・表現】

志村さんはどうして大変なのに無農業を続けているか聞いてみたい⑩

→お客さんに安心・安全なお米を食べてほしい。  
→完全無農業にして、ほかの品種と差別化して小田原のお米を有名にしたい。  
⇒後継者がいないので、お米づくりをしたいという人を増やしたい！

→お客さんのために無農業を大変だけど続けていたんだね。  
→他の品種との違いを生み出したということが伝わった。  
→志村さんのお米に対する思いがよく伝わったね。  
→やっぱり課題として、後継者がいないということがあるんだね。  
→お米をつくる人がいないから、農地が余っているって言ってたね。  
→そういえば、新潟の細金さんもお米農家が減っているって言ってたね。  
→この課題を解決していくにはどうしていけばいいのかな？

お米農家を継ぐ人を増やすにはどうすればいいかな？⑫⑬

・お米づくりの魅力をみんなに伝えればいい。  
・インターネットで多くの人に伝えるといいんじゃないかな？  
・体験教室とかやるといいと思う。  
・大学生や若い人を雇うといいと思う。  
・外国の人は興味持ってくれそう！  
・ロボットがほとんどやってくれればみんなやるんじゃない？⇒人の手で作ってくれるからこそ美味しいんだよ！  
・何か対策しているのかな？

・インターネットで生産の過程をお客さんに公開しているね。⇒安心して食べてもらえるように！  
・地域の農家と協力して生産をしている。  
・若い人に農業の技術を教えている。  
・米づくり体験をしてもらって、興味を持ってもらおうとしているね。  
・ほかにも困っていることはあるのかな？

米づくりの課題をどうやって解決していけばいいのかな？⑬⑭

→お米づくりの魅力をみんなに伝えればいいと思う。  
→お米新聞を作りたい！  
→お米を残さず食べることも大切だね。  
→小田原のお米のすごさを家族、学校のみんなに伝えていくのがいいと思う。  
→今農家の方が課題に対してどんなことをしているか知りたい！

→インターネットで生産の過程をお客さんに公開しているね。⇒安心して食べてもらえるように！  
→地域の農家と協力して生産をしている。  
→若い人に農業の技術を教えている。  
→米づくり体験をしてもらって、興味を持ってもらおうとしているね。  
→お米の消費量を増やすために、玄米を使ったパンを作っているね。  
→お米農家の方は農業を続けていくために多くの努力をしているんだね。

ほかにも困っているのかな？⑭

・お米を食べる人がすごく減っているらしいよ！  
・志村さんも言ってたけど、お米を作る面積が減っているんだね。  
・生産量も減っているね。  
・もう何か対策してるんじゃない？

・お米の消費量を増やすために、玄米を使ったパンを作っているね。  
・近くの農家と協力して生産しているね。  
・お米農家の方は農業を続けていくために多くの努力をしているんだね。

農家の方が課題に対して改善しようと様々な工夫や努力をしていることを理解している。【知識・技能】

農業にある課題をどうしていけばいいか、これまでの学習や農家の思いから自分の考えをもち、表現している。【思考・判断・表現】

6. 本時について

- (1) 本時目標 志村さんはこれまで通り無農薬でお米を作っていくべきかについて、これまでの学習から考えをもち、話し合いを通して多角的に自分の考えを深めたり、より明確にしたりすることができる。【思・判・表】
- (2) 本時展開

| 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |  | 主な支援・留意点 ◆評価【観点】                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <div><div>志村さんは何で無農薬でお米を作っているの？</div><div><div>このまま</div><div>・無農薬にすることで他の品種と違いを出せる。</div><div>・無農薬を売りたいというお客さんもいるよ。</div><div>・無農薬にすることで小田原のお米を有名にしたい。</div><div>モヤモヤ</div><div>・値段が高くなるなら農薬は少し使っていていいと思う。</div><div>・毎日食べるものだから安いほうが多くの人に買ってもらえる！</div><div>・大変だと継ぐ人が増えないと思う。</div><div>・自分だったら少しでも楽に米づくりしたい。</div><div>農薬使う</div><div>ネームプレート</div><div>農薬と無農薬の値段の差が分かるグラフ資料</div></div></div> <div>志村さんにもう1度聞いてみたい！</div> |  | <p>○前時までに学習したことを足跡として残し、いつでも振り返られることができるようにする。</p> <p>○子どもの考えを板書するとき、仲間分けをしていく。</p> <p>○つぶやきを拾い、問い返しをして、わからないまま話し合いが進まないようにする。</p> <p>◆志村さんはこれまで通り無農薬でお米を作っていくべきかについて、これまでの学習から考えを持ち、話し合いを通して多角的に自分の考えを深めたり、より明確にしたりすることができる。</p> <p>【思・判・表】</p> |

7. 実践を終えて

【ひびき合いについて】

本時ではこれまで学習してきたことをもとに、志村さんは無農薬で米作りを続けていくべきかについて話し合った。子どもたちの考えを聞いていると、志村さんのお米作りに対する思いをよく理解しており、志村さんの思いに寄り添った考えをもつ子がとても多くいた。一方、消費者目線で考える子どもが少なくなってしまう、ひびき合いが難しくなってしまった。志村さんが無農薬でお米を作る中で困っていることが分かる資料を掲示すれば、「志村さんが困っているなら、農薬を少しは使ってもいいのではないか」といった視点が出てきたのではないかと考える。

話し合いの様子として、子どもたちはよくつぶやき、自分の考えを伝えていた。よりつながりのある話し合いにしていくために、教師が子どもの考えを生産者、消費者、自分の3つの視点を意識して板書に仲間分けしていけるとよかった。板書に仲間分けがあることで、子どもたちが「〇〇さんと似ていて～」「〇〇さんと僕は違うんだけど～」というようにつながりのある話し合いになったと考える。こういった指導を日ごろから意識して子どもたちとともに授業を作っていきたい。

【ノート指導について】

単元を通して、学習の振り返りとして「お米日記」を大切にしてきた。子どもたちがその時間で分かったことや感じたこと、疑問に感じたことを自由に書いていいことを伝えてきた。その「お米日記」から子どもたちが疑問に感じていること、みんなで考えたいこと、調べたいことを拾い、次回の学習へとつなげてきた。また、子どもたちが書いた「お米日記」に対して赤を入れることも継続して行った。子どもに問い返しをしたり、気付いてほしい視点を書いたりして、より深く考えるきっかけになるよう努めてきた。

子どもたちが調べ学習をする中で見つけた資料をテレビに映して全体に共有するだけでなく、それぞれのクロームブックに送信し、自分の手元に資料が増えていくようにしてきた。全員が同じ資料を共有していくことで、話し合いの際に全員が同じ土台に立つことができ、よりよいひびき合いにつながると考えた。



## 【成果と課題について】

成果としては、学習の雰囲気が挙げられる。安心できる学習環境があることで、自由に自分の考えを伝えたりつぶやいたりする子が多く、話し合いが活性化していった。全体に伝えることが難しい子であっても、ネームプレートで自分の考えが今どうなのかを示したり、少人数の話し合いの中で思いを伝えたりすることができていた。これからは子どもたちの大切なつぶやきを教師が拾い、子ども同士の考えをつなげていけるようにしていきたい。

課題としては大きく2つ挙げられる。1つ目は学習問題への切実感が少なかったことである。志村さんが無農薬で進めていることに対して困り感があることが分かれば、子どもたちはより学習問題に対して切実になったと考える。話し合いの中で志村さんの収入に関するグラフや、買ってくれる人のグラフなど、志村さんの困り感に子どもが気づくことが大事であった。

2つ目は教師からの問い返しである。子ども同士で話し合いをしている中で、焦点化されないまま進んでしまう場面があった。教師が話し合いの流れを見て、より深く考えてほしいポイントや、子どもたちが迷っているポイントで問い返しをすることでさらにひびき合いができたと考える。

今回、この単元を作る中でお米の生産者やお米を買う消費者といった「人」を大切にしてきた。これからも授業づくりにおいて「人」という視点を大切にしつつ、子どもとともに単元を創っていくことを意識していきたい。

志村さんはこのまま無農薬でいい？

これからの米づくりは、  
農薬と無農薬のどちらが  
いい？

生産者・消費者 両方の  
目標をふまえて、どのように  
米づくりをしていけばいいのか  
について 深く考える姿

- 棒グラフの出し方
- お米日記 (ノート)
- 前時の確認 → 生産者のお米 現状 消費者のお米 課題
- グループワーク → 安心して話せる雰囲気
- 品質 (特A) への着目
- 「じゃかが買えばいいだよ」 (他人事)
- 後継者不足の話題をあげたら (考えの偏り)
- 志村さんが悩んでいることが、切実感がない。

視点を広げる。 消費者の人も 迷っているよ。

子どもの発言を広げる。 問い返し

「無農薬はいいことだけなのか？」

ひびき合い

志村さんはこのまま無農薬でいい？

主語が「自分たち」  
にするとよい

「マクドナルドによる見える化」

- 板書が見やすかった。
- 一人一人よく考え、つぶやきも多かった。
- 話し合いの雰囲気が良かった。
- つながり話し合いができていた。
- 教師の声かけ

これまでの話を受けて、  
生産者・消費者の  
両者の立場に立て  
多角的に考える姿

志村さんの話を聞いてから  
「このまま」を改めてすると  
かたよりのでは...

消費者としてのつぶやき  
をもっと拾う。  
農薬のメリットを資料と  
して用意できるとよい。

ひびき合い

学習問題「志村さんはこのまま無農薬でいい？」

志村さんの思いにどっぷり  
ひたりながら、  
現実とのギャップに  
考えをめぐらせる姿

資料の提示が小出し  
志村さんの思いが子どもたちに  
おちていた  
つぶやきが多かった  
書く活動「お米日記」

志村さんの困り感(収入)が  
はきりしない  
平塚と小田原の違い

思いと現実のズレを焦点化  
消費者の意見を提示  
次回の学習問題につなげる  
平塚と小田原の違いに立ちは

ひびき合い

志村さんはこのまま無農薬でいい？

「志村さんは このまま  
続けているのか？」

さまざまな視点から  
志村さんの今後につて  
考え話し合う姿

- 意見表示やみんなできた (ネーム)
- 学級のふんわり風気 (自由につぶやける風気)
- 志村さんへの思い

教師のゆさぶり  
(お金のこと  
継続していくこと など)

資料の提示  
めあてへの切実感

ひびき合い

学習問題「志村さんはこのまま無農薬でいい？」

このままでいいという意見に  
流れやすいかも...

自分が米づくり農家になると  
したら、無農薬？ 無農薬はいい？  
お米日記でなく 自分目標で考えられるかも...

ノート (めあて・反省の意見・自分の考え・振り返り)  
が書かれているよかも

「どちらでもいんだけど... 自分の考え」を  
伝えて、多角的に考えられていた。

PPM、価格という言葉で  
焦点化されていた。

前時までの提示が振り  
返りやすい。志村さんの思いが子ども  
に伝わりやすかった。

グラフが子どもたちの考えの  
助けになった。

いろいろな生産者の  
思いをくみとりながら  
考える姿

板書を生産者・消費者の視点で  
整理して、ズレを価格の柱になる  
お米と価格のズレを明確にした。

農薬とPPM以下は安全だよ! という  
つぶやきがあった。でも  
生産者の思いによりかわるという視点があってもいい。

ひびき合い

志村さんはこのまま無農薬でいい？

このまま  
続けるのか?

消費者ニーズをふまえて、  
生産者はどうしていくのか  
話し合う姿

- 全員が同じ目標で取り組むことができた
- 基本的知識の獲得 (10時間)
- 生産者の声
- 座席表の作り直し・反転授業
- 疑問がなくなる

7月9日の  
自分事  
お米の食べ方  
お米の育て方  
お米の歴史  
お米の文化

お米の食べ方  
お米の育て方  
お米の歴史  
お米の文化

板書  
問い返し (消費者・生産者)

意図的に指名  
思いや考えを口で話した  
人に注目させる

ひびき合い